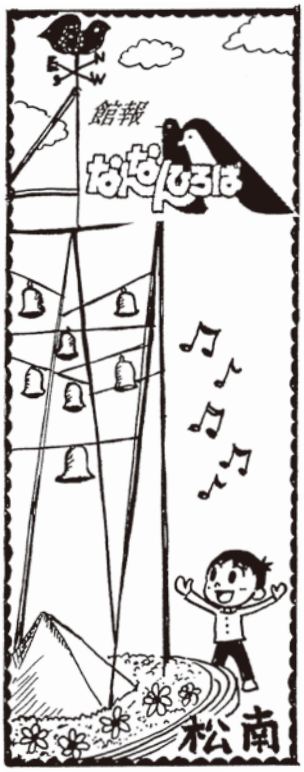


信明中学校吹奏楽部 地区発表会に寄せて

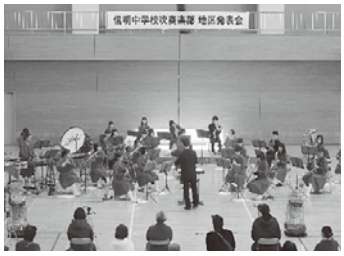
松南地区町会連合会　会長　川窪　忠男

松南地区は、例年、夏祭り「なんぶ未来まつり」を実施しています。本年は、コロナ禍で中止となり、中学校の吹奏楽部の出演もなくなってしまいました。

私は、学校と地域をつなぐコミュニティスクールの運営委員ですが、7月の会議で、「子ども達の発表の場を作れないか」と相談されました。その結果が、なんなんひろばでの美術作品展であり、今回の南部体育館での演奏会です。

11月14日、寒さやコロナ禍で心配しましたが、100人を超える観客を前に、アンコールを含め全12曲を堂々と演奏され感激しました。校長先生、顧問の先生、部長さんの挨拶にも思いがあふれ、目頭を熱くしました。

本年度、地区最大の行事だったと思います。ご尽力いただいた関係者の皆様に御礼申し上げます。



現代の名工 山本経一（つねいち）氏

皆さんも、双葉町の「四川（しせん）乃華（のはな）」という中華料理店をご存知でしょう。山本さんは県内外に何店舗も展開する社長さんです。山本さんは「鉄人」陳建民さんの流れをくむ料理人に師事し、教えを踏襲する四川料理の伝道師です。多くの弟子を育て店舗を作るに飽き足らず、高校など各所で四川料理を手ほどきする料理人です。これほど開放的な料理人の方を、私は聞いた事がありません。

その活躍から二年前は「信州の名工」に、今年は厚生労働省から卓越した技能の持ち主「現代の名工」150人の一人に選ばれました。

長和町出身の山本さんが松本に出店したのも「元庄屋（もとじょうや）」役員の方との巡り合いがあってのことと、縁を語られました。

現在は南松本商工振興会の会長もされながら、誰より早く出社。鍋一つでマジックのように料理できる魅力に「とりつかれた」と熱く語られる姿は、バイタリティの塊（かたまり）のような方でした。

（百瀬　壽）

それでも 町内文化祭！

宮田西文化祭

コロナ禍で町会主催の行事を悉（ことごと）く中止せざるを得ない状況が続く中、今年の文化祭を実施するかどうか、関係者で検討しました。開催に反対する人はなく、結果、期日を一日に短縮し、11月21日に行われました。出品作品は例年より減りましたが、どれも素晴らしい出来栄えのものばかりでした。

会場を訪れた皆さん達の間では、久方ぶりの再会に喜びと笑顔の会話が弾んでいました。

（近藤　晴彦）

素晴らしい出来栄えの作品

宮田中文化祭

コロナ禍のため、展示発表のみに縮小された文化祭が、「勤労感謝の日」に実施されました。

会場の公民館には、町内の皆さんの陶芸・書・生け花・手芸作品等々、力作が並びました。園児や中学生の絵画も展示され、来場者を楽しませてくれました。

今年は、町会の歴史を年表やビデオで振り返ったり、時節柄、健康で安全な生活への提言があったり、一味違う文化祭でした。自粛や制限の多い昨今、心豊かな時間に浸れた一日でした。

（石川　博子）

どれも力作ばかり

松本大学との懇談会

12月2日、宮田中公民館で、地域づくり協議会主催の懇談会が行われました。大学からは地域づくり考房『ゆめ』担当の4人の先生方が、出席されました。

第1部は、宮田中町会の役員の方からの報告を受け、質疑が交わされました。先生方も多様な実践に感心し、「最後まで地域で自立したい」との理念や、課題を常に探ろうとする姿勢に敬意を表されていました。

また第2部は、町会長さんから、地区の課題である「後継者・担い手不足」「町会離れ」「地域ケア活動」に絞って報告されました。

先生方からもサロンなど「集いの場」を育て「人の輪」を広げる努力が指摘されました。また町会加入のメリットを伝えるとともに、住民同士が本音を交わす機会を設ける等、助言を受けました。

「学生には地域志向や役立ち志向が強い。地域が壊れている今、交流が深まり、主体的に地域に入る学生を一緒に育てて欲しい。今日がその一歩となるよう努めたい。」との先生のまとめが、何よりのエールとなりました。

（白澤 幸男）

「コロナ退治だ！三九郎」

信州伝統行事「三九郎」。三股に組んだ櫓に門松や書を掛けて焼く。その炎で炙った餅で厄払いする行事です。コロナ禍だからこそ、賑やかに実施し、6年生に思い出を贈りたいと思いました。今年の小学生はほとんど行事が中止もしくは無観客企画となり、どんなに残念だったろうか。私たち芳野町役員は、三九郎を実施することを決意しました。

昨年度より南松本1・2丁目町会と合同開催となり、芳野町西公園で行われました。規模は大きなたき火程度でしたが、コロナ終息への思いと平穏な日常への思いはひときわ大きく、焼けた「繭玉」も一味違いました。

（百瀬 壽）

「きれいに落ち葉を集めたよ」

29日、双葉西町会の小学生が団地内の落ち葉拾いを行いました。

箒や熊手で集め袋に入れる繰り返し。でも嫌な顔ひとつせず、次第に遠くの落ち葉も探して拾いました。

落ち葉遊びをしながら、寒さも忘れ、一時間余り。最後はゴミステーションに袋を運び、用具もすっかり片付けました。

お菓子とジュースをもらい、疲れた顔も見せず、きれいになった団地周りを見て、嬉しそうに帰る姿が、とてもさわやかでした。

（藤森 俊男）

コラム松南

●気づかされた「当たり前」

今まで当たり前だった地区活動もままならない中、こんなお話を聞きました。

親しくご近所づきあいされていた方が、転居先ではご近所（町会）から声もかけてもらえず寂しい思いをされたとの事…。ご近所に転入された方や見知らぬ方がいらっしゃるようでしたら、町会の方々で気に掛けていただければ、その方も嬉しいと思います。

令和二年の秋は天候にも恵まれ、全国各地でとても素晴らしい紅葉が見られました。人混みを避け、自然の景色へと目を向けた秋でした。

世界中のコロナ感染が更に猛威を振るっています。過酷な現場で働いておられる医療従事者、介護、保育等の多くの方々には私達のために負担を強いており、感謝を申し上げます。

コロナ関連の出費もかさみ、マスク生活から早く解放されたいと思いながら、これまでとは違う静かな新年を迎える事となります。コロナの終息を願って止みません。

（H・H）